

## サーモン養殖試験事業の実施について

### 【海面養殖試験】

#### I 試験事業の目的

熊石地域の日本海側では、主力魚種であるイカやスケトウダラ、秋サケの不振が続き、漁獲量が大幅に減少するなど、漁業を取り巻く環境は厳しさを増しており、主産業である水産業の低迷は地域経済にも大きく影響を及ぼしている。

近年、青森県などでは、サーモン養殖が盛んに行われており、国内需要や価格等の面で今後も成長が見込まれることから、熊石沿岸漁業の振興と漁業経営の安定並びに地域の活性化を図ることを目的に八雲町とひやま漁協が共同でサーモンの海面養殖試験を行う。

#### II 試験事業の概要

養殖試験の施設規模	10m鋼管枠イケス 1基
養殖試験の魚種及び数量	トラウトサーモン 800尾
稚魚、成魚の大きさ	稚魚0.8kg/尾 成魚3.0kg/尾（目標サイズ）
種苗の購入先	青森県
養殖試験の実施場所	熊石漁港内 ※別紙航空写真参照
養殖試験の期間	令和元年11月～令和10年月まで
養殖試験の実施者	ひやま漁協熊石支所 サーモン養殖部会

#### III 試験項目

- ①成長の把握
- ②物理的環境調査
- ③費用対効果の把握

#### IV 養殖試験スケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和元年											生簀整備・設置、養殖試験準備	種苗搬入 馴致作業 飼育開始
令和2年			飼育・環境調査・生物測定				出荷				生簀整備・設置、養殖試験準備	種苗搬入 馴致作業 飼育開始
						生残率・増重率測定・試験結果まとめ						
令和3年			飼育・環境調査・生物測定				出荷				生簀整備・設置、養殖試験準備	種苗搬入 馴致作業 飼育開始
						生残率・増重率測定・試験結果まとめ						
令和4年			飼育・環境調査・生物測定				出荷					
						生残率・増重率測定・試験結果まとめ						

## 【陸上養殖試験】

### I 目的

八雲町とひやま漁協が共同で実施するサーモンの海面養殖試験と並行して、八雲町水産試験研究施設において、海洋深層水を活用し通年サイクルでのサーモン陸上養殖試験を行い、生残、成長等の知見の収集を図ることを目的とする。

### II 試験の概要

養殖試験の施設規模 魚類用FRP円形水槽（10t） 1基  
 養殖試験の魚種及び数量 トラウトサーモン 80尾 ※海面養殖試験の稚魚を使用する  
 養殖試験の実施場所 八雲町水産試験研究施設  
 養殖試験の期間（予定） 令和元年12月～令和2年10月まで

### III 養殖試験スケジュール

年月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和元年												種苗搬入 馴致作業 →
令和2年	飼育・環境調査・生物測定											
												←
												→
												生残率・増重率測定・試験結果まとめ



## 【トラウトサーモンとはどんな魚】



◆ 「トラウトサーモン」は、サケ科サケ属ニジマスの中で、ドナルドソン（アメリカのドナルドソン博士が作った品種）やスチールヘッド（ニジマスの降海型）、これらを改良したものなど、成長が良く大型になる品種。

◆ 現在、トラウトやトラウトサーモンとして流通しているものは、すべて養殖されたニジマスである。チリやノルウェー、タスマニアなどでは成長の良い品種を主に海中養殖している。

ニジマスには、海に下る降海型と一生淡水で生活する陸封型があり、陸封型は90cm、降海型は110cmぐらいまで成長する。日本で養殖または放流されたものはすべて陸封型で、一般に小型（30cm）である。

体は銀白色で背面は緑がかり、側線に沿ってピンク色の帯がある。体（特に背面）、背びれ、脂びれ、尾びれには小黑点があり、体の特徴からほかのサケ類との識別はある程度可能である。

